

耐久性の向上へ試験施工

コンクリートフライアッシュ検討委

産学官連携

北陸3県産学官連携のフライアッシュ検討委員会(委員長・鳥居和之金沢大学教授)は7日、同材をコンクリートに混和することで

より施工性や耐久性が向上する特性を現場検証しようとして坂井市春江町大牧の県道沿いで試験施工を行った。

降路で試された。生コンクリートの性状試験のほか熱特性や収縮特性の把握も実施。昇降路の一方には従来のコンクリート約8立方メートルを流し込み、もう一方には福井宇部生コンクリート芦原工場からの「フラ

続く福井県内2カ所目で、今回は県道からほ場への昇



坂井市内の県道で試験施工



経時変化を現地検査

「イアッシュ」コンクリート約9立方メートルを施して比較検討。今後4週間ほど養生し、強度など供試体により測定の上、実用化へ向けた貴重な基礎データを収集したい考え。

トに混和することで施工性や耐久性が高まるという特長を生かし、北陸地方における建設工事において標準的に使用されるよう、具体的な検討作業を行う。

同委12年3月23日付

この委員会は大学関係で金沢大学、金沢工業大学、富山県立大学、福井大学。また産業界からは北陸3県の生コンクリート工業組合および北陸電力。さらに国土交通省、富山県、石川県、福井県が行政参画して11年1月に発足した。フライアッシュとは石炭火力発電所で石炭を燃やした後に排出される石炭灰のうち、電気集塵器で採取した微粉末の灰を指す。それをコンクリー

の報告書(富山・石川版)によると七尾大田火力発電所で産出されるフライアッシュ(分級灰)の品質は、従来のフライアッシュより高品質で実際のコンクリートプラントで施工面・品質面に優れたフライアッシュを製造可能。また現在市場で幅広く使用されている普通セメント・高炉セメントを用いたコンクリートよりも品質面では同等、もしくは優ることが確認されている。